

病とともに生きる

火 1 谷本真理子先生 ほか

キーワード： 病 ケア 生きる 体験 患者理解

☒ ←実際に利用した資料にはチェックをしましょう。

書名をクリックすると、図書館 OPAC の該当図書の出貸状況などが確認できます。

病と健康に関する基本概念

- ☐ 『[病いの語り：慢性の病いをめぐる臨床人類学](#)』アーサー・クラインマン著；江口重幸, 五木田紳, 上野豪志訳 誠信書房 1996
→ 慢性病患者、家族、臨床家が病いについて語る声を紹介。臨床人類学の概念と方法を知る必読書。著者はこの分野の草分け的研究者。
★【本館閲覧室 3 階 493.1/YAM】【玄鼻 2 階閲覧室 WT500】
- ☐ 『[病いの意味：看護と患者理解のための現象学](#)』S. Kay Toombs 著；永見勇訳 日本看護協会出版会 2001
→ 医師と患者の間には、病気のあり方に対する基本的な理解の相違が横たわっている。これを心理学的現象学で分析した本。
★【本館閲覧室 3 階 490.145/YAM】【玄鼻 2 階閲覧室 W61】

文化に依存する病と健康

- ☐ 『[健康という幻想：医学の生物学的変化](#)』ルネ・デュボス著；田多井吉之介訳 紀伊国屋書店 1964, (新装版 1977)
→ 人間と健康の間の葛藤の歴史を、微生物・環境・文明等の視点で描いたエッセイ。著者は微生物学者でありピューリッツァー賞を受賞した文明批評家でもある。
★【本館閲覧室 3 階 490.4/D817, 本館 1 階書庫 490.4/D817】
- ☐ 『[医療の比較文化論：その原理と倫理を求めて](#)』久間圭子著 世界思想社 2003
→ 日本に生きる我々が求める医療を実現するには、政治・経済・歴史をも包括する文化的視点が必要。アメリカ医療改革を経験した著者が、医療の現場経験と市民としての立場、帰国後の文化ギャップをふくめ、国際的視点から新たな展望を示す。
★【本館閲覧室 3 階 498.02/IRY】
- ☐ 『[医療人類学のレッスン：病いをめぐる文化を探る](#)』池田光穂, 奥野克巳共編 学陽書房 2007
→ 医療人類学（＝健康と病気を対象にした人類学的研究）の成り立ちや可能性および具体的なテーマを、12 のレッスンに凝縮して紹介。多様なフィールドワークの中から興味のあるテーマを見つけて、さらに深めていくことが出来る本。
★【本館閲覧室 3 階 498/IRY】

がんとともに生きる

■Web サイト

- ☐ 厚生労働省 がん対策情報 【<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/gan.html>】
- ☐ 国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報サービス 【<http://ganjoho.jp/public/index.html>】
- ☐ がんサポート情報センター 【<http://www.gsic.jp/for/index.html>】
- ☐ ディペックス・ジャパン 健康と病いの語り 【<http://www.dipex-j.org/>】

糖尿病とともに生きる

- ☐ 『[わたし糖尿病なの](#)』 南昌江, 南加都子著 医歯薬出版株式会社 1998
→ 14歳で1型糖尿病と診断され、その後「患者さんの心の痛みがわかる医者」を目指して糖尿病専門医になった南昌江氏と、見守ってきた母加都子さんのエッセイ。

★【本館閲覧室3階 493.12/WAT】

■Web サイト

- ☐ (社) 日本糖尿病協会ホームページ 【<http://www.nittokyo.or.jp/>】

生活習慣と循環器疾患

■Web サイト

- ☐ 日本循環器学会 循環器病の診断と治療に関するガイドライン
【<http://www.j-circ.or.jp/guideline/index.htm>】

在宅酸素療法とともに生きる

■Web サイト

- ☐ 福岡呼吸不全友の会（ホットの会） 【<http://www3.coara.or.jp/~ookuma/hot/index.html>】

My Book List & Keywords 自分で見つけた図書や、実際に使った検索キーワードなどをメモしましょう。

授業資料ナビゲータ(PathFinder)入口(<http://www.ll.chiba-u.ac.jp/pathfinder/>)

本や論文を探す方法(<http://www.ll.chiba-u.ac.jp/pathfinder/pfsearch.html>)

作成：千葉大学附属図書館 2011.4.1